

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 西の家)

事業所番号	0670101476		
法人名	株式会社ケアセンターはなみずき		
事業所名	グループホームはなみずき		
所在地	山形市深町一丁目9番14号		
自己評価作成日	平成28年 8月 20日	開設年月日	平成15年 11月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個人として尊重し、入居者と家族のような関係を持ち、安心して過ごせる雰囲気作りに努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォーユー		
所在地	山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成 28年 9月 16日	評価結果決定日	平成 28年 10月 3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

リビングでは白寿を迎えた方や百歳を超えた利用者が、皆んなで朗らかに歌ったり、職員と共に家族の話やイベントでの敬老会の話題に花を咲かせ、和やかな様子が見られます。長生きの秘訣を尋ねると「好き嫌いなく何でも食べることで、職員が良くしてくれるのよ」と微笑んで話し、法人の理念である「人と人 気持ちつながるはなみずき みんなの笑顔咲かせます」を日々のケアに反映させています。身体機能などが低下する中で今後はレクリエーションの幅を広げることや外出をもう少し増やし、利用者の思いを受け止め更なるサービスの質向上を図りたいと努力している事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常に目の届くところに掲げている。会議などで理念に基づいた介護をしているか話し合っている。	法人の理念やユニット毎の理念を月1回の全体会議で全員で振り返りを行っている。「利用者が主役 その人らしい生き方ができるように」笑顔と穏やかな気持ちで関わり、共に楽しく過ごすことを心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお店へ買い物に出かけている。地域のサロンなどの交流会に参加したりして交流を図っている。また、その中で事業所の説明を行っている。	町内の夏祭りや年に6回開催される地域サロンでの花植え、遊びなどで利用者の笑顔に繋がっている。事業所をAEDの設置場所とすることや緊急時には備蓄の提供を行う等、協力体制の強化に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを開催し、地域の方々に参加を促している。施設のAEDを地域の方々も使えるように契約を結んでいる。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において情報や施設の取組みを報告を行い、参加者に意見をもらい、その内容を検討している。	法人の事業所と合同で定期的に行い、身近な話題を話し合っている。独自で毎月開催している認知症カフェへの呼びかけ方法の意見をもらい、町内会の回覧で発信する等客観的に見てもらえる場として運営に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの担当と運営推進会議などで状況や取組みを伝え、内容について相談している。	市担当者へは運営推進会議の報告や相談などで出向く事も多く、良好な関係を築いている。自然災害が増えている中で助言をもらい水害マップを参考に、マニュアルの作成を検討中である。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	拘束となる行為について、全職員が理解し、行っていない。ただし利用者の状況に応じて、安全面で必要と判断した場合に玄関を施錠することがある。	研修を行いマニュアルなども活用しながら、頻回に立ち上がる利用者にも引き止めることなく拘束をしないケアに努めている。玄関については死角になる為に日中の時間帯にも施錠されていることが見られる。	外出したがる利用者の行動背景や落ち着けるケア、見守りを全員で話し合い鍵をかけない工夫をされることに期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について内部及び外部で研修を行い、認識を持つようにしている。また、虐待に関する情報は職員間で共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や資料提供を行い、学ぶ機会を設けるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面に基づいて利用者・家族に丁寧に説明している。内容を理解。了承いただいたうえで、契約・解約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話などの際に意見・要望があれば、可能な限り聞き入れるようにしている。また、定期的に運営推進会議を行い、内容を運営に反映させている。	利用者の暮らしぶりを毎月便りにして居室担当者から家族等に伝え、来訪時は何でも言い易い雰囲気づくりに配慮している。今年度も家族等へのアンケート調査を実施し、感謝の声が多く聞かれ職員の励みとなっている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者が職員と話し合える機会を設けており、その内容について反映できるように代表者・管理者で相談している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は「人材が会社の財産と考えており、すべての職員に公正な評価をしている。また、人の成長を考えた配置転換を行うなど、職員がやりがいを持って仕事に取り組めるよう配慮している。		
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者を通じて、または職員と接し、一人一人の力量を把握している。外部研修があれば職員に参加を促している。また、定期的に内部研修を行っている。	外部へは希望や段階に応じて参加し、内部では毎月様々な研修をするなど意識向上に繋げ日頃のサービスに役立っている。年度末に代表者は職員と面談し、メンタル面や働きやすい環境づくりに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者が県グループホーム協議会、日本認知症グループホーム協会山形県支部に加盟しており、管理者や職員を会議などに積極的に参加させている。その中で同業者とのネットワーク作り、他事業所の長所を取り入れさせたりしている。	代表者・管理者や職員は交換研修・事例発表などに出席し交流を図り他事業所の良い点などを取り入れている。ネットワークづくりで互いの悩みや相談もできサービスの質向上に繋げている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や要望をヒアリングなどにより明確にし、それまでと変わらない生活を送れるように具体的なサービスの指針を示すよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの内容について十分な説明を行っている。また、家族などから疑問や不安があったときは傾聴したうえで解決に向けて取り組み、信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームや当施設の特徴を説明し、理解していただき、必要な場合はほかのサービスの選択肢も提示している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯などの家事をスタッフ・利用者が共に行うなど、日々の暮らしの中で出来ることは助け合いながら生活している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話などの際に本人の様子を報告し、情報を共有している。また、月に一回書面にて、その月の様子を報告している。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙などでの馴染みの人との交流、馴染みの場所へドライブや散歩に行くなど、可能な限り本人の要望に沿えるような支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席配置を工夫する・共通のレクを行う・職員が交流の橋渡しをするなど利用者同士の関係が良好になるように気を配り働きかけている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も年賀状などのやり取りをしたり、必要に応じて、電話連絡や面会を行っている。また、相談にも応じている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの話を傾聴し、希望・意向に沿えるように努めている。毎日の気付きや情報を記録や申し送りなどで共有し、支援できるよう努めている。	利用者の生活歴や好みなどを聴き取り、その方の生活目標に留意しながら思いを汲み取っている。日頃は楽しく関わることを心に留め、馴染みの理容店や墓参りに行くなど思いに沿えるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から以前の暮らしぶりについて情報を集め、サービスに反映させるよう努めている。サービス利用に経過についても記録し、スタッフ間で共有できるようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの利用者に合わせた支援を行っている。家事も可能な限り利用者で行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	可能な限り、本人・家族・関係者と話し合い、意見を集め介護計画を作成している。また、スタッフでも話し合い、現状に即した介護をしている。	家族等からの情報収集を基に「本人の思い」を大切にプランの作成をしている。毎月の会議で全員で気づきを共有し、3ヶ月毎にモニタリングを行い主治医の意見も取り入れ、変化がある場合は家族の理解を得て見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のミーティングなどで情報を出し合い共有し、その内容を計画作成に生かしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>近隣の店に買い物に出かけ、一緒に商品を選んだり、馴染みの理髪店に行ったりして交流を楽しんでいる。また、地域のサロンやお祭りに参加し、楽しんでもらえるように支援している。</p>			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>事業所とかかりつけ医で連携を取りながら本人や家族と希望を尊重し、通院の支援を行っている。受診の結果は電話や家族へのお便りにて報告している。</p>	<p>かかりつけ医への受診の際は、ほとんど職員が同行している。その結果を記録し、職員全員で共有している。また、家族等には電話やお便りで知らせている。緊急時や夜間時の変化には、かかりつけ医・協力医に連絡し、指示や往診等ですぐに対応出来る協力体制を整えている。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員と連携を取り、体調の変化があった場合には適切な対応が取れるように確認している。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院した際には、本人、家族、病院、かかりつけ医、関係者と情報交換し、出来るだけ早期に退院できるよう支援している。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>家族との話し合いで方針を決定している。医療機関と連携を取ってチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化・看取りについての指針により研修を行い理解を深めている。早い段階で本人・家族等の希望を聞き取り、重度化した時は医師の指示・方針のもと、その都度話し合い全員で連携し支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応について学ぶ全体学習会を定期的に行っている。職員一人一人が対応できる実践力を養うための機会を作っている。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応マニュアルを作成している。また、定期的に消防署の方を招き防災訓練を行っている。災害時に地域の方と協力する体制を整えている。	本年度の火災避難訓練では、職員行動手順(通報・初期消火・避難誘導等)の確認を行っている。災害時の備蓄活用・AEDの利用等や訓練への参加呼びかけを通して、地域との協力関係を進めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない関わり方を心掛けている。	「人間対人間として接する」ことを大切に考え一人ひとりの思いや生活歴を把握して、人格の尊重やプライバシーを守りながら支援している。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本位の意思決定が出来る環境作りに努めている。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活を優先し、職員主導のサービス提供にならない支援を行っている。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に伺いながら、着替え選びや整容の支援を行っている。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時は準備・片付けも含めて可能な限り利用者と一緒に出来るようにしている。また、職員、利用者は同じテーブルで食事を取っている。	法人内事業所で調理し、利用者は盛り付けや後片付けなど出来ることを手伝っている。美味しさや好き嫌いなどそれぞれに話しかけながら職員も一緒にテーブルを囲んでいる食事風景が見られる。レクリエーション行事では利用者の希望をメニューに取り入れ喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎回記録している。一人一人の嗜好を把握しながら水分・食事摂取の確保に努めている。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個別に口腔ケアの声掛け、介助を行っている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の介助が必要な利用者に対して排泄パターンを確認し、その時間に沿ったトイレ誘導、排泄介助を行っている。退院後、オムツ着用になった場合も日中トイレ誘導を行うなど、トイレでの排泄が出来るように支援している。	利用者の多くは自立しているが、支援が必要な方にはさりげない声かけや誘導を行い、トイレでの安全やプライバシーに配慮しながら見守っている。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防の為、水分・食事量のチェックの他、日常の中に体操やレクリエーションなどを取り入れ、適切な運動量が確保できるように努めている。また、看護師。かかりつけ医と連携を取り、個々の排便状況に合わせて下剤の使用も行っている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望を聞き、好きな時に入浴が出来るように支援している。	入浴時刻や回数は利用者の希望に合わせている。入りたくない時は本人の意思に任せ無理強いしないようにしている。1対1の介助をしながらゆったりくつろげるように支援し、時には歌声が聞こえることもある。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人一人の様子を見て、気持ちよく休息したり、安眠できるよう随時声掛けしている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個別にファイリングし、薬の目的や副作用について、職員間で確認するよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の際のテーブル拭き、食器拭き、洗濯物干し、掃除などそれぞれ役割を担っており、職員はそれをサポートしている。また、塗り絵やけん玉、輪投げ、エアロバイクなど好きなことが出来るような環境を作っている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くのスーパーへの買い物や散歩、ドライブ、地域の催しなど希望があればそれを優先して行っている。家族と外出したり、外食したりする場合には事前に連絡・調整し、外出がスムーズに行えるよう支援している。	利用者の高齢化により外出機会が減っている。ドライブや買い物・地域行事への参加・季節毎の花見やもみじ狩りなど、できるだけ外出に誘い外気に触れる機会を作っている。外食などは楽しみのひとつとなっている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者は家族が管理している。何名かは財布を所持しており、その人の力や希望に応じて、お金を使えるよう支援している。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の支援は、本人から希望があれば、可能な限り速やかに行っている。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにいれば、台所からの食事作りの匂いがし、窓からは中庭の風景を楽しむことができる生活感のある空間となっている。加湿器やエアコン、すだれなどを季節に応じて活用し、温度・湿度管理している。施設内には花を飾り、季節感を感じ取れるように配慮している。	中庭の木々の移ろいやリビングに花を飾ることで季節を感じられるようにしている。安心して過ごせるようトイレ表示を見やすくするなど工夫し、利用者がゆっくりつろげる雰囲気作りをしている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは仲の良い利用者同士で談笑したり、テレビや新聞を読んだり、塗り絵をしたり、各自が思い思いに過ごしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、その人にとって、引き続きそれまでの暮らしの延長という形で生活できるよう配慮している。馴染みの家具や家族の写真など、好きな物を好きな所に置いて居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベッドや寝具を持ち込み、使い慣れた家具や家族の写真などを飾りながら整理整頓された居室作りをしている。本人が気に入って安心して過ごせる部屋になるよう配慮している。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人が安全かつ快適に生活できるように随時改善、工夫している。		